



【スヌービーとチャーリーが会いに来てくれたよ！】

和

第41号 (平成28年 夏号)



【センター南側から撮影】

編集：大阪市立総合医療センター 地域医療推進委員会
(〒534-0021 大阪市都島区都島本通 2-13-22)
<http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/>

大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる暖かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

掲載内容

- チーム医療の活動紹介「口腔ケアチーム」
- 専門外来のご案内「リウマチ外来」
- がんの診療について「乳がん」
- トピックス「熊本県でのDMAT 活動報告」
- 市民医学講座等のご案内

■ チーム医療の活動紹介 『口腔ケアチーム』 ～口腔環境改善～



当院口腔ケアチームでは入院患者さんを対象に口内炎・歯肉炎・誤嚥性肺炎の予防を目的にお口の掃除・歯ブラシ指導等を行っています。口腔外科外来にて口腔ケアを行います。治療による倦怠感で歯磨きも行えなくなる方がおられるため患者さんの体調に合わせて病棟往診も行っています。

歯茎が痛い→血が出る→歯磨きしたくない→食事も痛い、と悪化していきます。食事が出来ないと治療が進まず中断になってしまうことがあります。

治療を有効かつスムーズに進めてもらうため、歯科衛生士を中心として歯科医師・病棟看護師・他職種と連携・協力し口腔内のトラブル改善に努めています。



口腔ケアの基本は「歯磨き」です。口腔ケアチームでは入院患者さんへ対して「1日5回の歯磨き」を推奨しています。毎食後＋起床時＋就寝前の5回です。

就寝中、歯周病菌・虫歯菌が磨き残しを餌に増殖・活動を活発にします起床時の口の粘つきは菌の活動によるモノなのです。口腔内は高温多湿であり菌にとっては天国なのです。就寝前に丁寧な歯磨きを行ってもらい口腔環境の改善に努めて頂きたいと考えています。まずはかかりつけ歯科医を持ち、定期的に口腔ケアを受診してはいかがでしょうか。当院入院の際に希望頂きましたら口腔ケアチームが口腔ケアさせていただきます。



■ 専門外来のご案内

「リウマチセンター」

大阪市立総合医療センター

総合診療科部長 後藤 仁志

高齢化が進むにつれて運動器に障害を来す疾患は増加の一途をたどっています。その中でも関節リウマチは発症のピークが 30～50 歳代の青壮年時期から発症し、生涯にわたって治療が必要な超慢性疾患です。関節リウマチは、病初期は内科的な薬物治療、進行すると整形外科的治療が必要な疾患ですが、一般的には未だに内科、整形外科が単独で診察を行っている病院が多く、統合的治療がスムーズになされていないのが現状です。

当院では診療科の垣根を越えた診療体制を構築するためリウマチセンターを設立いたしました。すなわち内科と整形外科のリウマチ専門医が協力しながら患者さんを同時に診療することにより、診断から治療までのトータルマネジメントを行います。

リウマチ内科とリウマチ外科がチームを組んで治療を行うことで、薬物療法による寛解を目指した十分なコントロールと適切な時期に手術加療を行うシームレスな治療が可能です。

そのために最新の関節エコー検査装置を導入し、積極的に炎症組織の可視化に努めています。また、当院では皮膚科の協力を得て最近注目されている乾癬性関節炎などの皮膚疾患に関連した関節炎や皮膚症状を伴うことの多い膠原病に対しても診療が出来ることが特徴です。



【最新の関節エコー】

大阪市内と周辺地域のリウマチ専門施設と連携し、高度の医療が必要となった患者さんの受け入れ先としてリウマチセンターの役割を担います。関節リウマチを始めとするリウマチ・膠原病類縁疾患の患者さんは、原疾患の病状が落ち着いていても、合併症などで入院を含めた高度な医療が必要になったときに、専門医の不在を理由に多くの医療機関からしばしば受け入れ困難と断られる傾向にあります。総合内科医が中心となって、すべての診療科がそろっている当院ならではの機動性を生かして、各専門科と協力してチーム医療を行います。これは他のリウマチ専門施設に無いユニークなところです。当センターがこのようなバックアップ体制を敷いておりますので、リウマチ患者さんは通い慣れたリウマチクリニックや地域の病院に安心して通院治療を受けていただけます。



【リウマチカンファレンスの様子】

〈リウマチセンターに受診の際には〉

1) かかりつけの先生からの紹介状を持って当院を受診して下さい。適切に診断し治療方針の決定をいたします。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 関節痛があるのに鑑別診断が困難な場合 ・ 専門医の診察や画像評価を希望された場合 ・ すでに診断がついていて治療が開始されていても関節炎がなかなか改善しない場合 ・ 生物学的製剤などのより強力な治療を希望される場合 ・ 合併症があるためかかりつけの先生が治療に困られている場合 ・ 合併症の評価を希望される場合 	<p>◎紹介先は各担当医師にお願いします。</p> <p>リウマチ専門外来（月、水） 総合診療科 後藤仁志医師</p> <p>整形外科リウマチ外来（火、金） 多田昌弘医師</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手術や装具療法について相談されたい場合 	<p>整形外科リウマチ外来（火、金） 多田昌弘医師</p>

2) 進行した関節リウマチを中心とした破壊性関節炎の治療難渋症例については各科の医師が同じ診察室で診察し協議しながら治療計画を立てる専門外来のシステムも導入しており、必要に応じて受診していただきます。薬物療法、装具療法、手術療法、リハビリテーションなど多くのメディカルスタッフが同時にかかわることが出来る体制を敷いております。

3) かかりつけ医の先生が入院（転院）の必要があると判断された場合は地域医療連携室を通して手続きしていただくことが可能です。

■ がんの診療について 「乳がん」

大阪市立総合医療センター 乳腺外科部長 小川 佳成

<乳がんについて>

乳がんは乳房にできるがんで、閉経前の40代から発症率が高くなります。乳がんは年々増加しており、1年間に約9万人の方が新たに乳がんになります。生涯で女性の12人に1人が乳がんになるとされており、比較的身近な病気ともいえます。最近、「乳がんの怖い話」がテレビを賑わしていますが、適切な治療を受ければ乳がんの8割以上の方が完治します。早期に発見、治療をすれば、その割合も高くなります。

<乳がんの症状>

乳房のしこりが最も多い症状で、皮膚の引きつれや乳首からの血性分泌で見つかることもあります。お腹の中の臓器とは異なり乳房は外から触れることができるので、乳がんは自分でも早期に発見できるがんなのです。実際に自己検診で5ミリ程度のがんを見つけて受診される方もいます。また、しこりを触れる前に乳がんを見つけるためにマンモグラフィによる乳がん検診が大阪市でも行われています。



3D マンモを用いた、より詳細な画像検査

<乳がんの診断>

しこりなどで当科を受診された場合、まず超音波検査とマンモグラフィ検査を行います。乳がんが疑われるしこりが見つかった場合には、細い針で組織を採取して顕微鏡で診断する針生検を行います。そして乳がんと診断された場合は、CT検査などを行い、広がりや転移の有無を確認して治療方針を決めます。受診から、ここまで約2-3週間です。

<乳がんの治療>

手術、抗がん剤、放射線を組み合わせて行います。手術は乳腺部分切除やセンチネルリンパ節生検などのように小さな範囲を切る手術が主流となり、乳房切除を行った方には整容性を考えて乳房再建術を行うことも可能です。

術後のリンパ浮腫を防ぐための ARM という新しい試みも行っています。術式により異なりますが、多くの方が1週間以内に退院し日常生活に戻っています。抗がん剤治療は再発のリスクやがんの性質を考慮して行います。

抗がん剤には点滴で行う化学療法、飲み薬の抗ホルモン剤、特定の癌細胞を攻撃する分子標的剤があります。サブタイプというがんの性質を細かく分けて判定することで、より効きやすい抗がん剤を選ぶことができます。

副作用への対策が進んでいますので、抗がん剤治療も放射線治療も日常生活を保ちつつ通院で行うことができます。



超音波ガイド下に
5mmの腫瘍に対する針生検

<サポートすること>

がんになれば、自分自身のことだけでなく、家族や仕事のことなど抱えるものの重さに堪えなければなりません。治療選択において迷いの方、見えない不安におびえる方もいるでしょう。また治療の甲斐無く乳がんが再発する方もいます。治療を受ける苦労だけでなく、その時々で色々な悩みや不安が出てきます。昔のがん治療といえば治すことが至上の目的でしたが、今は治すことに加えて支える医療も重要と考えられています。あなたが抱える不安や苦労を少しでも和らげたいと考えているスタッフが院内にはたくさんいます。1階総合受付の右奥に医療相談窓口がありますので、困ったなと思ったら、まずは声をかけて下さい。

(詳しくは当院ブレストセンターのホームページをご覧ください。9月10日には市民公開講座を開催しますので、こちらにも是非ご参加下さい。)

当センターが取り扱うがんの種類

肺がん・縦隔腫瘍/乳がん/胃がん/大腸がん/食道がん/肝がん/胆嚢がん・胆管がん/膵がん/前立腺がん/膀胱がん/腎がん/尿路がん/精巣がん/血液腫瘍(白血病、リンパ腫など)/子宮がん/卵巣がん/脳腫瘍/骨軟部腫瘍/頭頸部がん/小児がん/皮膚がん/原発不明がん/性腺外胚細胞腫瘍/眼腫瘍/口腔がん

がんのこと一人で悩まないで！ 相談してください。 がん相談支援センター（電話：06-6929-1221）

【近畿一円のDMAT チームと共に熊本に向かう】



『DMAT 活動報告』

DMAT（Disaster Medical Assistance Team）は最近報道やテレビドラマなどでも注目されていますがご存知でしょうか。

DMATとは平成7年の阪神淡路大震災を契機に平成13年に発足し、大規模事故災害・広域地震災害などの際に災害現場・被災地域内で迅速に救命治療を行えるための専門的な訓練を受けた機動性を有する災害派遣医療チームのことを指します。当院でも救急部スタッフを中心に、研修を受けたメンバーが災害時に備えており東日本大震災の際にも派遣されています。

このたび熊本県を中心に襲った震災でも、4月16日から20日まで当院から医師2名、看護師2名、業務調整員2名、ドライバー1名の7人から成るDMATチームが派遣されました。熊本では北海道から沖縄まで全国から800チームを超えるDMATチームが活動していました。活動内容としてはドラマなどで出てくる「瓦礫の下の医療」は実際にはほぼ無く、患者さんの搬送（広域搬送含む）や地域医療機関の診療支援が主になるのですが、当院のチームもDMAT本部業務の一環を担ったり、地域の病院の診療支援を行ったりという活動内容でした。次のチームに業務を引き継いで4日間の活動終了となりました。

まだまだ被災地では復興半ばであり、今後も継続的な支援が必要とされています。一日も早く被災地の皆さんが元の生活を取り戻せることを祈っております。



【DMAT本部でのミーティング】



【今回派遣されたDMATチーム一同】

市民医学講座等のご案内

心配しないで

乳がんからあなたを守る!!
ブレストセンター

平成28年

開催日 **9月10日(土)** 14:00~16:00

大阪市立総合医療センターさくらホール

自己診断
体験コーナー

乳がん看護
認定看護師
相談コーナー

ピンクリボン
作ってみよう

乳がん術後の
リハビリって?

楽しいブースが盛りだくさん!
親子観覧ブースもあるよ!

- 講演1 知ってほしい乳がんの話～貴方のため、そして貴方の大切な人のために～
池田 克実（乳腺外科副部長）
- 講演2 ～形成外科医師より乳房再建のおはなし～
升岡 健（形成外科副部長）
- 講演3 働く女性のためのがん晴れる道知るべ～仕事と治療を両立させるために～
川崎 由華（がんライフアドバイザー）
- 講演4 知って下さい！当院のサポーター～あなたはひとりじゃない～
白石 知佳（乳がん看護認定看護師）

今後の予定

9月22日（祝・木）	小児青年てんかんセンター公開セミナー「続・こどものひきつけ」
11月2日（水）	市民公開糖尿病ゼミナール「ためしたカッテン2016」
12月10日（土）	市民医学講座

